

チョボ床と囃子場

歌舞伎の音楽の演奏をするのが囃子場です。ここにある通り、通常舞台背後の格子戸のある空間に位置し、演奏者は観客からほとんど見ることはできません。ここでは物語に劇的な効果をもたらすため長唄や常磐津、清元などを歌い、楽器を演奏します。

長唄は文字通り長い歌で、演技に伴って歌われる伝統的な歌であり、その発祥は江戸時代までさかのぼります。能の歌の形式に影響を受けており、三味線や太鼓と一緒に演奏されます。劇の種類によっては、様々な大きさの太鼓、何種類もの横笛、その他の楽器、無数の効果音を出すための道具が使われることもあります。

金丸座には、舞台の左手、下手がわのみに囃子場があります。

チョボ床は舞台の両袖の上にあり、太夫と呼ばれるナレーターが歌を歌ったりセリフを語ったりする場所です。